

きたそらち

2020
7月号
No.232

～農業振興を通じて地域社会へ貢献～



当JAと准組合員との交流の場「JAきたそらち地域農業応援団」が立ち上げられ、6月18日、第1回応援団会議が開催された。

→記事の詳細は2ページ

農業振興を通じて
地域社会へ貢献

20th

JAきたそらち創立20周年
- SINCE 2000 -

目次

- 令和2年度 JAきたそらち女性大学
「カレッジ あみていえ」入学式…………… 3
- 令和2年度 新規就農者激励状贈呈式…………… 4
- 旬の青果物が続々と出荷スタート…………… 5
- 知っておきたい得する経営情報…………… 10～11

JAきたそらちでは、
ホームページとFacebookで、
魅力満載の情報を発信中です！
ぜひ、ご覧ください！

ホームページ

Facebookもチェック



「JAきたそらち地域農業応援団」を設立

当JAでは今年度より、JAと准組合員との交流の場「JAきたそらち地域農業応援団」を立ち上げ、JA管内に住む准組合員8名が入団した。

「応援団」は、第29回JA北海道大会で定められた将来ビジョン「北海道550万人と共に創る“力強い農業”と“豊かな魅力ある農村”」に基づいて決議された「食と農でつながるサポーター 550万人づくりの拡充」の一つ「准組合員モニター会議」の実践として、応援団活動における相互交流を通じ、准組合員及び地域住民の管内農業・JAへの理解・共感を深め、地域の活性化や協同組合活動の発展に資することを目的に立ち上げられた。

6月18日に、当JA本所大会議室で第1回応援団会議が開催され、応援団員やJA役職員など20名が出席した。開会にあたり柏木孝文組合長は、「准組合員を対象に、地域農業とJAの現状や事業内容をご理解いただきたいという気持ちで設立した。地域に貢献をさせていただくのが農協の役割であるため、応援団活動を通じて准組合員の皆さまから様々なご意見を頂戴し、今後の事業展開を図りたい」と挨拶した。

応援団員として活動する准組合員は自己紹介の中で、「地元JAの取り組み内容を詳しく知りたい」「農業に関して勉強し、子ども達に伝えたい」などと述べた。総合企画室の鈴木親良室長がJAの設立目的やJA組合員、当JAの事業内容とビジョンについて説明を行った後、「食育ソムリエ」の資格を持つ青果部の河原秀昌青果課長と植田隼斗係から、家庭菜園や食育活動についての講習会が行われた。団員からは、「自宅の小さな畑で色々な種類の野菜を栽培しても障害はないか」など多くの質問が出され、同職員は土づくりやプランター栽培のコツ、肥料の種類や特徴などについて説明を行った。さらに、深川マイナリー、広域小麦・大豆乾燥調製貯蔵施設、精米施設の見学を行い、普段はなかなか見ることのできない施設内部を見学し、集荷から調製・出荷までのそれぞれの工程で最新鋭の設備と徹底した品質管理が行われていること等に関心が寄せられた。

今年度は時季に合わせた活動を5回に分けて行う。



令和2年度

JAきたそらち女性大学 「カレッジ あみていえ」入学式



農業
振興部

6月19日、当JAの組合員(正・准)やその家族である女性を対象とした、JAきたそらち女性大学「カレッジ あみていえ」の入学式が開催された。

「カレッジ あみていえ」は、JA管内の女性が「食と農」「暮らし」「文化」などの学習を通じて、元気な地域づくり・心豊かな仲間づくりを目指し次世代を担う女性リーダーを育成することを目的に開校し、JA女性部員や管内に住む准組合員など16名の受講生が入学した。

開校にあたり、同大学の岩田清正学長(JA代表理事専務)は式辞の中で、「今までは、地元食材を生かした加工食品などの商品開発や安全・安心を伝えるために女性の力が発揮されてきたが、今では「農業は男の仕事」という時代は終わり、また近年、法人化や規模拡大をすすめる生産者も増えた中で、女性視点での農畜産物の生産や販売、経営への参画など、女性の協力なしでは農業ができなくなってきている。同大学を開校することにより、JAとしても、より女性の力を最大限発揮できる場、自らのスキルアップにつながる場を作り、第一期生としてご入学された皆さま方と、JAと地域に新しい風を吹かせたい」と述べた。

岩田学長より受講生に学生証の授与が行われた後、オリエンテーションが行われ、営農企画課職員より同大学の教育方針や令和2年度カリキュラムが説明され、受講生の自己紹介が行われた。受講生は自己紹介の中で、「来年の自分がどう変わっているか分からないけど、頑張ってみたい」「新しい仲間と様々なことを学んでみたい」などと述べた。

入学式の後には記念講演が行われ、農業振興部の佐藤一久部長が講師として「人、自然、未来にやさしい暮らし方 今日から始められる一歩～エシカルライフ」と題し、綿花をめぐる社会問題を例に、目の前にあるものを通して、それを作ってくれている人たちや運んでくれている人たち、そしてその仕組みを想像し、遠くの人や環境に配慮する社会になっていくことが大事であることを説明した。

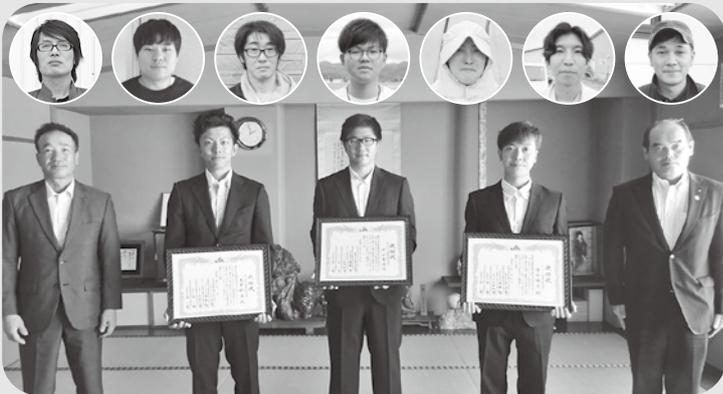
同大学の受講期間は2年間となり、今年度は時季に合わせた講習や体験を6回に分けて開催する予定となっている。



※『あみていえ (amitié)』の由来
フランス語で一般的には「友情」と訳される女性名詞であるが、本来の意味は「血縁や性的な魅力にも基づかない二者間で生まれる行為や共感の感情」を意味する単語



令和2年度 新規就農者 激励状贈呈式



※左から2人目：大井研太、3人目：杉山竜飛、4人目：清水雄斗
 ※上段丸枠左から1人目：松浦和徳、2人目：妙島大翔、3人目：谷藤 学、
 4人目：岡田汰一、5人目：金田絵利紗、6人目：川上啓太、7人目：徳重雅也

支所(地区)	氏名
深川(音江)	松浦 和徳
深川(メム)	妙島 大翔
	谷藤 学
深川(一已)	清水 雄斗
深川(納内)	杉山 竜飛
深川(多度志)	岡田 汰一
	大井 研太
北 竜	金田絵利紗
	川上 啓太
幌加内	徳重 雅也

6月5日、令和2年度 新規就農者激励状贈呈式が行われ、新規参入やUターン、新規学卒など10名の新規就農者のうち3名が出席した。役職員が見守る中、柏木組合長から一人ひとりに激励状が手渡された。柏木組合長は、「地域の先輩方からのアドバイスを取り入れ、明日の担い手として成長してほしい」と激励の言葉を贈った。

出席者を代表して、大井研太氏（多度志地区）が「深川マイナリーや広域小麦・大豆乾燥調製貯蔵施設などの素晴らしい施設を有効活用させていただき、農作物の品質向上を目指していきます」と力強く決意表明した。

【営農企画課 石野】

農業 振興部



『農福連携』スタート



当JAでは、今年度より労働力を必要とする生産者と近隣の福祉事業所をマッチングさせる『農福連携』の取り組みを開始し、6月初旬から音江地区の生産者2戸が、花きの脇芽取りや下葉取りなどの作業で受け入れを行っている。

この取り組みでは、個人で雇用契約を結んで働くことが困難な障がい者に軽作業などの就労訓練を提供する「就労継続支援B型事業所」に協力いただき、深川市の「NPO 法人 深川市手をつなぐ育成会 深川ディスプレイスふれあいの家」、「(一社) 創成会 就労継続支援B型夢工房」、妹背牛町の「(一社) きたそらちウェルフェアリンク アグリーン妹背牛」の3事業所より受け入れ、当JA管内の生産者宅で作業に従事している。障がい者が事業所を離れてJA施設や生産者宅で働く『施設外就労』には、事業所の職員も同行し、生産者から依頼された作業をスムーズに行えるよう指導や補助を行う。

本年度受け入れを行っている渡邊滋典さん（音江地区）は、「真摯に作業をしてくれるのでとても助かる。継続して働いて欲しい」と話す。

今後は「ピーマン」や「ミニトマト」の生産者宅でも就労を行う予定となっている。

【営農企画課 墓田】

旬の青果物が続々と出荷スタート!

青果部

青果部の野菜集出荷施設では、続々と旬の野菜の出荷が始まっている。当JA管内の青果物の生育状況は、5月上・中旬頃は例年に比べ日照時間が少なく、また朝晩寒い日も多いなど生育は若干停滞したが、下旬からの好天と、生産者の肥培管理等により品質の良いものが出荷されている。

なお、胡瓜・さやいんげん(ピテナ)・グリーンピーマン・まるかじりトマトは、深川市道の駅「ライスランドふかがわ」農産物直売所「eciR」でも販売している。

【青果課 川本】

きゅうり

5月29日より、きゅうり
の出荷が始まった。この日
は、きたそらち胡瓜生産組
合(本瀬修二組合長、組合
員22戸)の(株)深川未
来ファーム(一巳地区)が
SからLサイズ計16ケース、
83kgを出荷した。4月下旬
頃から定植を開始し、昨年
より3日遅れとなったが、
出荷をスタートした。

同生産組合では今年度、
10.2haに作付し、約30万
ケースの出荷、4億3千万
円の売上を見込む。同日、
共選作業も始まり、8規
格に分け主に1箱5kgで
札幌や名古屋の市場を中
心に出荷する。



グリーンピーマン

6月8日より、グリーン
ピーマンの出荷が始ま
った。この日は、きたそ
らち果菜生産組合(折野
哲也組合長、組合員7戸)
の(株)三谷農園(音江地区)
がM規格を中心に47kg
を出荷した。昨年より1日
遅い初出荷となった。

当産地のピーマンは「ピク
シー」という品種で、果
肉はやや厚めで炒めても
食感が良く、他のピーマ
ンに比べ苦味成分(クエル
シトリン)が少なく子供
にも食べやすい品種とな
っている。札幌・旭川・
滝川の市場へ向けて10
月下旬まで出荷が続く。



さやいんげん(ピテナ)

6月3日より、さやいんげ
ん(ピテナ)の出荷が始
まった。この日は、きた
そらち豆類生産組合(神
尾綾子組合長、組合員
43戸)の高畑耕一さん
(北竜地区)が、Mサイ
ズを中心に8箱(2kg/1
箱)を出荷した。昨年
より3日遅い初出荷とな
った。

今後は徐々に出荷量も
増え、出荷のピークは
9月となり関西市場を中
心に10月中旬まで出
荷が続く。



夏秋苺

6月7日より、夏秋苺の
出荷が始まった。夏秋
苺は主にケーキ用とし
て販売されるが、一部
生食用でも販売する。
この日は、きたそらち
苺生産組合(尾崎雅一
組合長、組合員7戸)の
宝利秀次郎さん(音江
地区)、尾崎雅一さん
(メム地区)が、大き
な粒の「3L」という規
格を中心に約12kgを
出荷した。昨年より5日
遅い初出荷となった。

今後は徐々に出荷量も
増え、旭川市場を中
心に11月中旬頃まで
出荷が続く。



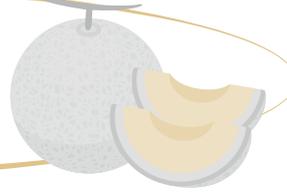
まるかじりトマト

6月10日より、まるかじ
りトマトの出荷が始ま
った。きたそらち大玉
トマト部会(土居健一
会長、会員3戸)の高
尾義弘さん(メム地区)
がM~Lサイズを中
心に計15ケース約60
kgを出荷した。昨年
より3日遅い初出荷
となった。

札幌方面を中心に10
月上旬まで出荷販売を
予定している。同部会
では今年度、1.4haに
作付けし、145tの出
荷、約4千5百万円の
売上を見込む。



雨竜町・北竜町 特産メロン出荷開始



青果部

雨竜暑寒メロン

6月15日、香りがよく糖度の高さが特徴の青肉メロン「暑寒メロン」が初出荷された。この日は雨竜メロン部会(橋本貴之部会長、会員25戸)の大橋一夫さんが、1ケース4玉入り計10ケースを出荷した。今年は融雪が早く、苗の定植は昨年より1週間程早く行われ、4月中・下旬頃の低温による着果不良が心配されたものの、その後は気温も回復し順調に生育した。この日行われた糖度検査では、糖度16.3度と高い数値を出した。

大橋さんは、「受粉後は特に夜温が低く管理が大変だったが、思ったよりも肥大してくれ、無事出荷を迎えられた。今年も安心・安全な美味しいメロンを出荷するので、たくさん食べてもらいたい」と笑顔で話す。

「暑寒メロン」は、同部会が約4.1haで栽培しており、今年には1万4千ケースの出荷を見込む。出荷は7月中・下旬頃にピークを迎え、8月中旬まで続く。



初出荷した大橋さん(中央)と妻の玲子さん(中央右)

北竜ひまわりメロン

6月11日、爽やかな香りと甘さが特徴の青肉メロン「北竜ひまわりメロン」が初出荷された。この日は、北竜メロン生産組合(前田規文組合長、27戸)の渡辺靖範さんが、1ケース4から5玉入り計10ケースを出荷した。

今年は積雪量の少なさが影響し、初出荷は昨年よりも2日早く、過去16年で最も早い初出荷となった。

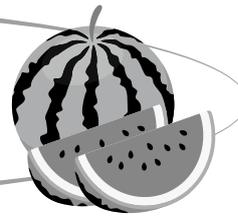
渡辺さんは、「サイズは昨年より小玉だが、今年も糖度が16度を超す甘み充分の美味しいメロンができた」と笑顔で話す。

「北竜ひまわりメロン」は、同生産組合が約6.7haで栽培しており、出荷のピークは6月中旬頃から始まる。今年には2万5千ケースの出荷、1億円の売り上げ目標達成を目指す。



初出荷した渡辺さん(前列中央右)

夏の風物詩「スイカ」の 出荷始まる



青果部

マダーボール

6月17日、ラグビーボール形が特徴の小玉すいか「マダーボール」が初出荷された。この日は、きたそらちマダーボール生産組合（谷本徹組合長、13戸）の高田敬大・大輝さん兄弟（雨竜町）、川本和幸さん（北竜町）、三上洋さん（北竜町）が3玉から6玉入り計8ケースを出荷した。初出荷は昨年より8日遅いが、今年は寒暖の差が激しかったことが影響し、糖度13度と甘さ十分のものが持ち込まれた。

高田敬大さんは、「降雨不足や寒暖の差が激しかったので、ハウスの開け閉めなど管理は大変だったが、糖度が高いスイカを作ることができた。新型コロナウイルスに負けないように生産者としても頑張っているため、消費者の方々には沢山食べてほしい」と話す。

同生産組合は今年1.27haに作付けしており、今年は約5千5百ケースの出荷し、約1千3百万円の売上げを見込む。出荷は10月中旬まで続く。



初出荷した高田さん兄弟（右から2、3人目）と三上さん（左から3人目）、川本さん（左から2人目）

北竜ひまわりすいか

6月7日、北竜町特産の果肉が黄色い「ひまわりすいか」が初出荷された。この日は、ひまわりすいか組合（5戸）の渡辺俊成組合長が4玉から6玉入り計19ケースを出荷した。今年は融雪が早く定植は順調に行われ、5月は低温の日が多くハウス内の気温が上がらず作業に遅れが生じたものの、生育は順調に推移し、平年並みの初出荷となった。

渡辺組合長は、「今年も寒暖差が激しく温度管理には苦労したが、糖度の乗りが良いスイカができた。新型コロナウイルスの影響は今のところなく、例年通り出荷する予定なので、今年も多くの人に食べてもらえたら」と笑顔を見せる。

出荷のピークは6月下旬から8月上旬まで続き、約1万4千ケースを出荷し、約4千万円の売上を見込む。



初出荷した渡辺組合長（前列左端）と妻の文江さん（前列中央左）

雨竜田んぼアート 田植え作業を実施



6月10日、青年部雨竜支部（松平昌広支部長、部員27名）が雨竜町で巨大な絵を作り出す「田んぼアート」に向け、主食用やカラフルな鑑賞用水稲苗の田植え作業を行った。

「田んぼアート」は、同支部が雨竜町道の駅「田園の里うりゅう」横の実証展示圃場に作り、今年で12回目となる。同町立雨竜小学校の6年生が「炊飯釜から飛び出す雨竜町特産『暑寒メロン』のキャラクター」と、「I♥(LOVE) URYU」といった文字などのデザインを考案した。

この日は晴天で気温も27度と高い中、部員21名とJA職員などが手作業で田植えを行い、指示役の部員に植える場所を確認しながら、緑の「ななつぼし」と黄、白、赤の4色の苗を一つずつ植えた。またデザインを考えた児童14名も参加し、目印を頼りに、部員と協力しながら一つひとつ苗を植えた。半日をかけ、10aの水田に約1万8000株の苗を植えて絵を完成させた。

圃場横には全体を見下ろせるやぐらが設置されており、7月中旬から見頃を迎える。同支部の松平昌広支部長は、「今年は新型コロナウイルスの影響で、見に来てほしいというアピールを大々的にできないので、ただ児童に楽しんでほしいという思いで実施した。児童が笑顔で田植えする姿を今年も見ることができてよかった」と話す。



新風



農家後継者



氏名	まつら まさひろ 和徳 さん
年齢	38歳
就農年	令和元年5月
地区	深川支所 音江地区 経営主(株)ファームマツウラ 代表取締役 松浦保徳さん
経営面積	45ha (水稲・そば)

☆目指す農業
就農する以前は、苫小牧市の運送会社に勤務しておりました。農業経験はまだまだ浅いですが、様々な経験を積み重ねながら効率的に経営を進め、さらなる規模拡大、収量の確保を目指していきます。

まだまだ覚えることは沢山ありますが、1日でも早く知識・技術を習得し、立派な農業者になれるよう、一生懸命頑張ります。皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

【新規就農希望者受入農家・新規就農希望者募集】

JAきたそらちでは、新規就農希望者を受け入れていただける生産者を募集しております。興味がある方は、下記にお問い合わせ願います。

また、JAホームページ・新農業人フェア等で新規就農者の募集も実施しておりますので、お気軽にご相談願います。

- ◇ お問い合わせ先：農業振興部 営農企画課【TEL：0164-26-0134】
- ◇ ホームページ：http://www.ja-kitasorachi.com/farmer/index.html

経済部 燃料課からのお知らせ



ストーブ分解整備受付中



長年使用しているストーブを寒い時期に故障が起きないように整備しませんか？
火が大きくなる、円筒ガラスが曇っている、床暖の暖まりが悪いなど気になる
ことがあればシーズンオフの時期に分解整備をして安心の冬を迎えましょう。

ストーブ分解整備料金（一部抜粋）

タイプ	基本整備料金 (10%税込)	参考型式
床暖ツインヒーター	¥45,320	UHB、UHF-〇〇TBFS
FF式床暖内蔵型	¥31,680	UH-F、UFH-〇〇UKF
煙突式床暖内蔵型	¥27,280	UH-〇〇系、UFH-〇〇UKC
FF式壁置輻射（大型）	¥24,640	FF-〇〇系、FFR-DF、KF、SF
FF式壁置輻射（小型）	¥20,680	FF-V、VT、VY系、FFR-〇〇BL
煙突式壁置輻射タイプ	¥18,480	SV-〇〇系、KSH系
煙突式壁置タイプ	¥17,380	KFH-UKC、USC
煙突式角型両面タイプ	¥16,390	KSH-〇BS

- ★部品代は別途加算されます。
- ★お客様宅より取外してお預かり、分解整備後お届け試運転まで行います。
- ★上記にないタイプはお問合せをお願いします。
- ★ストーブ分解整備は3～4年ごとが目安です。



円筒ガラスの曇り、燃焼ポット内部のススを除去して燃焼効率UP！灯油の消費量も軽減！

ご依頼、お問合せは各地区の給油所までご連絡をお願いします。



食と農を、エネルギーでつなぐ。

ホクレンSS



音江セルフ給油所 (0164) 25-2720
深川セルフ給油所 (0164) 23-2456
イチヤンセルフ給油所 (0164) 22-1391

納内給油所 (0164) 24-3311
多度志給油所 (0164) 27-2115
北竜和給油所 (0164) 34-2541
幌加内給油所 (0165) 35-2001

※雨竜地区は北竜和給油所へご連絡をお願いします。

知っておきたい得する経営情報

第1回

農業後継者不足や経営者の高齢化の進展に伴い、法人への経営転換や事業継承を検討する組合員が今後更に増加することが予想されます。

当JAでは旭川市 税理士法人 中央総合会計（平成21年設立、代表社員 井内敏樹氏）から講師を迎え、平成25年より法人化に向けた研修会を開催しています。

法人化など新たな経営へ転換する際には、各種の手続きが必要となり、組合員に対して、それらの専門知識をもち経営転換を図るための適切なアドバイス、また手続き（別途有料）などをしていただくため、この度中央総合会計と顧問契約を締結することとなりました。

6月より、毎月一回の無料税務相談会のほか、組合員又は職員に向けた税務研修会を開催していただき、またJA広報誌を通じて3か月に一回（年4回）、税務に関する最新の情報などをご提供いただきます。

消費税の税率改正が農業に与える影響

昨年の10月1日より消費税の税率が改正され、複数税率がスタートしました。以前と比べ記載事項の増えた消費税申告書に戸惑った方も多いのではないのでしょうか。今回は消費税の改正が農業に与える影響について掘り下げてみたいと思います。

簡易課税

まず、簡易課税制度ですが改正前は、自ら生産した農産物の販売は第3種事業（みなし仕入れ率70%）でしたが、令和元年10月1日以降の販売は第2種事業（みなし仕入れ率80%）となりました。これは、食品である農作物の売上が8%軽減税

率であるのに対し、種苗や資材といった経費は10%通常税率となる為、今までと同様の事業区分では不利になってしまうことへの対処です。

ですが、稲作や畑作は令和元年については種苗や資材などの主な経費は10月1日以前の8%のものが大部分でした。そのため、経費に対する仮払消費税は増えていなくても、みなし仕入れ率が高くなったため、税額計算では有利になっていました。例年よりも消費税の納税が少ないと思われた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

令和2年度以降は、経費が10%税率のものが大

部分となるために、第3種事業から第2種事業へ変わったことで消費税の納税額が減る分は、種苗や資材などの経費の増加として表れてくることとなります。今までは消費税の納税時に支出されていたものが、経費等の支出の増加となって表れるため、資金繰りには注意が必要となります。

売上の計上基準

また、委託販売などについても、以前は手取り額での売上計上が認められていましたが、税率改定後は農作物は軽減税率、業者に払う手数料は通常税率と消費税率が異なるので、手数料を引く前の

総額で課税売上を計上しなければならなくなりまし
た。

これにより、納税義務
判定の課税売上高1千万
円以下、簡易課税適用の
課税売上高5千万円以下
の判定基準に影響を与え
ます。

還付になる 場合の増加

次に本則課税ですが、
経費や設備投資に係る消
費税率は10%通常税率の
ため、今までに比べ設備
投資などで還付申告とな
る場合が増えてきます。

また、総収入に対し交
付金の割合が高い作物を
作っている場合も還付の
可能性が高くなります。
簡易課税を選択されて
いる方は、本則課税との

比較検討をお勧めいたし
ます。簡易課税は計算が
容易ですが、設備投資で
還付申告となることはあ
りませんので設備投資を
計画している場合は特に
注意が必要です。

事務作業の増加

今までは課税・非課税・
不課税の区分で良かった
のですが、複数税率とな
ったことで、課税取引を
更に税率ごとに区分して
経理することが求められ
ます。

特に、自主販売で配送
料を別途徴収している場
合には、配送料は10%通
常税率です。果物狩りも
入園料は通常税率となり
ます。また、飼料用作物・
生きた畜産物や原皮も通

常税率となります。実務
上判断の困難なケースも
出てきますので注意が必
要です。



税理士法人
中央総合会計

「安心」が、私たちの商品です。
<http://www.csk-i.com>



税務相談会のお知らせ

開催日時：8月7日(金) 午前10時から
開催場所：営農センター小会議室
定員：1日5名の人数制限のため要申込
申込期限：7月22日(水)まで ※相談会開催2週間前
申込先：農業振興部営農企画課 墓田 (Tel: 0164-26-0134)
お問合せ： //





信用事業のあり方をめぐり、道内108JAでは2019年4月までに①単独②合併③信用事業譲渡（代理店化）の3つの選択肢に基づく検討が行われた。農協改革集中推進期間が終了する一方、マイナス金利の長期化に伴い、信用事業における奨励金水準の段階的な引き下げが始まる。JAをめぐる環境の変化を踏まえ、今後も持続可能な経営基盤をどう維持していくのか。北海道大学・小林国之神准教授の進行で、「持続可能なJAの事業運営」について道内JA関係者にご議論いただいた。

【出席者】

- 小林 国之神**
北海道大学大学院農学研究院准教授
- 柴田 倫宏**
JA北海道中央会専務理事
- 宮本 英靖**
JAピンネ代表理事組合長
- 佐藤 正昭**
JAこしみず代表理事組合長

出典：「北海協同組合通信 2020 新春特集号」
「持続可能なJAの事業運営」北海道協同組合通信社

信用事業は

全道で約35億円の減少

小林 今日のテーマは「持続可能なJAの事業運営」。農協改革については、JAグループの自己改革に一定の評価も出てきているが、経営の視点から見ると、これからかなりシビアな状況が予想される。特に20年度から農林中金の奨励金引き下げが始まり、金融事業を中心とした都府県のJAだけではなく、農業地帯の北海道のJAにとっても非常に大きな課題になっている。まずは農協改革や金融環境の変化を踏まえた農協経営のあり方として、全道の方向性と各JAの取り組みなどをつかいたい。最初に中央会が19年4月に取りまとめた各JAのあり方検討の状況を。

柴田 5年間の農協改革集中推進期間が19年5月に終了し、ひとつの区切りがつけられたが、この間にいろいろな改革を求められてきた。同時に、金融情勢もマイナス金利が長期化し、日本の経済システムが大きく変わり、そこに農協も飲み込まれつつある。持続可能な事業運営に向けて全道108農協の皆さんはどう考えていくのかということで、農林中金の奨励金引き下げを前提にそれぞれシミュレーションしてもらい、単独、合併、信用事業譲渡の3つの選択肢も

示しながら、19年4月までに各農協で再点検していただいた経過にある。その結果、108農協のうち、コスト削減や販売強化などに取り組みながら、単独の総合事業体としてやっていくと回答したのは94農協で、このほか事業基盤強化のため合併を検討したいと回答したのは11農協だった。このうち8農協はすでに合併検討委員会などの枠組みがあるが、枠組みなしのところも3農協含まれている。また、あり方検討とは事情が異なるが、日高の3農協が信用事業譲渡を選択している。

なお、検討に当たっては、農林中金やJA道信連からの還元率を一律で設定し、各農協の中期計画などをもとに2023年度の収支見直しをシミュレーションしていただいた。日高3農協を除く105農協の部門別事業利益を見ると、17年度と比較して信用事業は全道で約35億円のマイナスが見込まれるほか、共済事業も長期共済保有高の減少により収益率が下がったため約11億円減、購買事業も約12億円減。このほか、販売事業利益は微増の2億円、その他が9億円増で、事業総利益全体では約47億円のマイナスとなっている。これに対し、事業管理費は12億円増えるため、経常利益は71億円のマイナス。17年度と比較して35%ほど厳しくなるという結



小林 国之
(こばやし・くにゆき)

1975年北海道生まれ。北海道大学大学院農学研究科を修了後、助教を経て2016年から現職。地域連携経済学研究室。主著は「ホクレン販売事業にみる経済連の組織機構と機能」「総合農協のレーゾンデートル」「北海道から農協改革を問う」など。

果が出ている。

宮本 当農協でも影響は大きく、コミュニケーションの結果、22年には現行と比較すると信連からの奨励金で約5000万円ほど落ちる。しかし、今までも農協本来の姿は、組合員の結集があって、われわれが農産物をしっかりと集荷して有利販売することが第二で、この農産物の販売が金融・共済、経済事業につながっていくというイメージです。ここをやってきている。これからもしっかりと組合員の理解をいたしながら、農産物の集荷率を高め、さらに系統が有利販売を続けていけば、何とか乗り切っていけるだろうと考えている。

小林 しかし、5000万円というのは大きな額だ。畑作・酪農地帯に比べて水田地帯は貯貸率が低く、預金運用が中心。より大変なのではないか。

宮本 確かに貯貸率は7%で預金の

割合が高く、その分今回の奨励金引き下げは非常にきつい。ただ販売面

においては、おかげさまで米の集荷率が93%と高い。これからも農協に対する組合員の理解をつないでいきながら、農協離れを食い止めることによつて、信用事業の減収分は全体でカバーできるというのが基本的な考え方だ。

2006年に営農センターを立ち上げ、営農部と農産部をひとつの組織に入れると同時に、営農部の中に営農渉外課を設けた。このスタッフは4人で、仕事は農家回りが専属。中は生産資材の推進、営農相談、農作業の人材派遣とさまざまだが、それによって農協への結集と集荷率の向上が図られ、その延長で金融、共済事業に結びついていけばいいと考えている。実際に渉外課を始めてから販売高は2億5000万円ほど伸びてきた。こうした取り組みを進めていくことがこれからの農協経営にとって重

要だと考えている。

小林 ピンネの営農渉外課は、全国的に見るとTACに近い仕組みだと思う。組合員との関係性や若い世代の変化は。

宮本 営農渉外課の組合員訪問は毎日のことなので、特に何も用意せずに行うことが多いが、その中で、基本的に農協は皆さんがつくって皆さんが利用する組織であり、いここ取りでは大変なことになる、皆さんが結集することが大切だという指導は欠かさないようにしている。併せて青年部組織にも渉外課の担当者などが顔を出し、青年部の中から次の農協の経営者が出てくるということも伝えてきており、それによつて若い世代の意識も少しずつ変わってきた気がする。また、以前は渉外課に女性スタッフがあり、そのため農家のお母さんや娘さんなどの相談ごとにも聞くことができた。ここは職員

置を工夫しながら将来に向け再設置を考えている。

小林 全国的に見ても農家の女性の声をきちんとくみ上げるといのは重要な取り組みであり、北海道はまだ足りない部分があるが、農協への結集力という面からも、経営主はもちろんだ、女性の声を聞くことでさらに広がりが出てくると思う。このほか、組合員との対話という意味では、ピンネでは全職員が農事組合組織などに出向く二斉推進にも取り組んでいる。

宮本 それは渉外課とはまた別の「相談機能」という組織体で、121人の職員を5人平均で21班に分け、管内全地区に割り振り、春は米の契約や水田の作付け、秋は集荷体制の相談などに出向いているもの。農協からの押し付けではなく、組合員からも頼りにされており、逆に「来てくれ」と言われて行くこともある。



柴田 倫宏
(しばた・みちひろ)

1966年生まれ、北海道大学農学部卒。88年北農中央会入会、90年函館支所、95年帯広支所、99年農業対策部畑作農業課、2006年札幌支所、09年基本農政対策室、12年農業対策部畑作農業課長、13年同酪農畜産課長、16年東京事務所長、17年常務理事、19年9月から現職。



宮本 英靖

(みやもと・ひでやす)

1953年生まれ。拓殖大学北海道短期大学卒。99年にJAピンネ監事、2002年代表理事専務を経て、08年から現職。17年からは空知農協連副会長、空知管内農協組合長会副会長、ホクレン理事を務める。道農協米対策本部委員。

佐藤 問題は、われわれは金融農協ではなく、販売農協だということ。まずそこをしっかりとやっていかないとけない。農協は金融・共済で成り立っているから見られがちで、もちろん金融の利益もあるが、基本は営農指導であり、それによって農家の皆さんの生産力を上げていくための組織。常にそこを真ん中に置いてやっていくことが大切だ。さりとて、金融・共済は農家組合員だけでなく地域住民からも頼りにされている。うちも准組合員が6割以上を占め、地域住民に支えられている部分がある。小清水には郵便局と信金もあるが、金融のシエラは農協が約7割。地域住民の生活を守るために必要な組織になっている。

利益が約5000万円減る。その先はもって減る可能性もある。しかし、そこは工夫次第だろう。当然これからも金融事業は譲渡せしめていく必要がある。ただ、営農指導の中身を細かく見ると、土地の売買から税金対策、農作業事故の対応、さらには冠婚葬祭や高齢者の悩みなどの相談など、相当幅広いことをやっている。これから金融・共済が厳しくなっていくとすれば、そこは組合員にきちんと説明し、営農指導はすべて無償という認識は、少しずつ変えてもらわなければならぬだろう。そのためにも、組合員に正確な情報を伝えていくことが大切。今は当たり前になっていることも、実は当たり前ではないということも伝えることが大事だと思う。

小林 組合員の理解や教育という面で、小清水は地域の歴史を組合員に伝えるなど積極的に取り組んでいる。そこを一生懸命やらないと、自分でここまでできたような感覚になって、ひたすら何でもできると錯覚する人が出てきてしまう。先ほど米の集荷の話があったが、うちは畑作物が中心なので少し違っけれども、系統利用が当たり前という空気をつくっておくことは大切。生産部会などでも、ただ罰則規定を設けたのでは「ペナルティを払えばいいだろう」という話になるが、そうではなく、皆で決めたことは皆で守り、地域で守るという意識を持ってもらわなければ。それが寄り集まって農協への結集につながる。そのためには農協としても組合員が何を求めているのかを知り、いかにしてこちらを向いてもらうか、ということが一番大事になってくると思う。



佐藤 正昭

(さとう・まさあき)

1948年生まれ。93年JAこしみず理事、02年から現職。08年からホクレン理事、11年からオホーツク農協組合長会会長、オホーツク農協連代表理事会長、JA道中央会理事、JA全農総代などを務める。

農政運動の重要性を再確認

小林 一連の農協改革の動きについて、実際に組合員の人たちはどれくらい危機意識を持っているのだろうか。例えば中央会の連合会化など、人ごとのような思いがあると思えば、そこは問題だと思う。

佐藤 多くの組合員にとっては人ごとだろう。しかし気にしている部分はあるし、よく言えば、組合長や役員に任せておけば安心だと思ってくれているのかもしれない。それが人ごとではないと伝えるには、ひとつは組合員教育をやって、政治に興味を持ってもらう努力をすることだろう。小清水では5年ほど前に農民連盟が解散したが、そうなるも組合員が勉強する場所もなくなりました。そのため新たに農政協議会をつくり勉強してもらっている。北海道の農業は交付金の割合が大きく、中央会を中心

とした農政活動があつて初めて経営が成り立つ。決して自分ひとりの力で生活できているわけではない。そこはきちんと制度を含めて教えていかなければ。

ただ、今はいろいろなところから情報が入るし、農業団体と同じような活動をする組織も出始めている。そうすると、われわれが国に要請してやうと積み上げてきたものが、メールなどですく手に入る。それも言つてみれば情報のいふと取りで、農協も農連も関係ないという人が出てくることになる。これから先はそういうところにも注意を払つていかなければならぬ。

小林 中央会も9月から連合会となったが、北海道のJAグループを代表する組織として、これまで中央会が果たしてきた機能や役割、存在意義などを、末端の組合員にも見えるような形に変え、発信していく必要がある。

柴田 中央会も連合会になつてスリム化しなければならぬし、やるべきことはきちんとやらなければならぬ。そういう思いで19年4月に第4次中期計画を立て、3つの基幹事業とともに、農政事業を重点事業として位置づけた。その中で特に農政運動については、かつてのガット・ウルグアイラウンドの時代は、外圧を利

用して自ら勉強し、組織に結集するという、まさに協同組合運動の原点とも言うべき状況があつたと思つたが、WTOが空分解して2国間の経済連携に移ってきたころから、後の農協改革の影響などもあり、運動の機会が少なくなつてきたのは事実。中央会が進むべき道は中期計画に示したが、組合員教育を含めた具体的な運動のあり方なども考えていく必要があるだろう。

佐藤 私が組合長になつた当時はWTOがあり、よく全道の組合長の皆さんと一緒に運動に出た。国にも要請に行つたし、全国大会などにも参加した。しかし最近はそのような機会が減り、参加する組合長も少なくなつていく。こういうものは自分で参加して経験することによつて、組合員に対してしっかり説明できるよつになる。農政運動の中でもそこが今、非常に足りなかつたと思つた。

柴田 農業団体が大会や集会を開催すると、外からは「こぶしを挙げている」と見られてしまうかもしれないが、実際はそれにより組織内の結集が高まつたり、地元に戻つたときにより正確な情報を組合員に伝えられるという側面もある。そこをもつて度考え直さなければいけないのかも知れない。JA全中主催の大会も開かれなくなつたが、この2年「全国

フォーラム」といふ名前で開催しており、農政運動に対する危機意識の表れだと思つた。

佐藤 そこは形を変えてでもやらなうとだめた。農協改革の中でひとつよかつたのは、うちの組合員は中央会の役割を理解してくれている。ホクレンに対してはいろいろ言つたが、「中央会は絶対に必要な組織」という理解が組合員にあつたこと。正直意外だつたがすぐうれしかった。やはり農政活動をしっかりとやることが伝わっているのだと思つた。非常に大事なことであり、ここを緩めてはいけない。

柴田 農協というのは経済事業体であると同時に運動体であり、手法を含めて運動体の部分をやや疎かにしてきたことが、今日の組合員の組織離れを招いている可能性もあり、そこは中央会の役割が大きい。しっかりとやらなければならぬ。

小林 なかなか伝わりにくい部分であり、特に比較的若い世代は農政運動という言葉に距離を置きたがるところがあるが、北海道の場合、農政運動の成果として手にしてきたものは非常に大きい。しかし最近個人が自由にやることを助長する仕組みになつていて、国が示す政策の方向に沿い「それにどう合わせるか」という手法が変わつてきているよつに見えるが。

柴田 確かに、畑作物などは当時の品目横断など北海道主導で仕組みをつくってきたが、米は全国の仕組みの中でどう北海道に合った運用にしていふかというのが、最近の動きになつてきている。特に米政策の見直しが始まつたここ数年、農政運動の中で農水省とも意見交換を重ねながら、北海道が求める具体的な仕組みを北海道提案型で強く誘導してきた部分がある。

宮本 具体的には、全国一律の米政策の中で、産地交付金について地域でフリーに配分できるような仕組みを要望し、道枠と地域枠というやり方に対応してもらつたのが大きなポイントだと思つた。また米の作付面積についても、加工用米などのいわゆる水張り転作に地域で自由に取り組めるよつになつているが、これもわれわれが要請しながら、農水省と一緒に仕組みをつくってきたもの。ここはもう少し広げていきたいと思つている。

小林 これからもその土地道な農政運動の成果を地域農業の振興や農協事業に結びつけていくことが重要。ただ、本来はそれらがすべて体となつて展開してきたのが日本の農協の特質であり、今はそこが分断されてきているという課題もある。

(4)は88頁に掲載済み



新型コロナウイルス感染防止のためテレビ会議システムを活用した中で、5月13日に北海道農協酪農畜産対策本部委員会と生乳受託販売委員会の合同会議を開催し、新型コロナウイルス感染拡大に関する対応、及び令和3年度酪農畜産政策・価格対策に向けた対策等について協議しました。

新型コロナウイルスによる牛乳・乳製品の需要低下に対しては、乳業者等と連携を図り生乳処理の最大化を図るとともに、国の緊急対策を活用した消費拡大・需給調整対策を実施することとしました。

また、今後農林水産省に対し酪農畜産分野の懸念事項を踏まえ必要な対策を継続して要請することとしました。

令和3年度に向けた酪農畜産政策・価格対策については、組織討議の内容を踏まえ、7月上旬に開催する道酪畜対で、概算要求に向けた政策提案の内容を決定いたします。なお、新型コロナウイルスによる国内経済への影響が長期化した場合、さらなる牛乳・乳製品の需要低下が懸念されることから、酪農生産基盤を棄損させないよう国の緊急対策も踏まえ、万全な需給安定の仕組みの構築を強く要請することを確認しました。



JA北海道信連

2008年度から全国の子どもたちに向けて食農教育等の取組みを実践する「JAバンク食農教育応援事業」を展開しています。本事業の一環として、子どもたちが食・環境と農業への理解を深めるきっかけとなることを願い、小学5年生を中心とする高学年向けの補助教材「農業とわたしたちのくらし」を作製しています。道内においては、本年度、約5万部の冊子とDVDを全道の小学校へ贈呈いたしました。



JA共済連北海道

JA共済では「家族みんなで健やかに、安全に。『おうち時間を充実させよう!』」をテーマに、JA共済のホームページに様々なお役立ちコンテンツをご用意しております。コンテンツは、○おうちでできる健康増進活動 ○おうちでじっくり、交通安全を学ぼう ○おうちの防犯、コロナ詐欺が増えています ○健康・介護ほっとラインをご紹介します。

外出自粛中にご自宅で「健康で安心して過ごしていただく」、「子どもたちが楽しく交通ルールを学べる」取組みとしてぜひご活用ください。



ホクレン

ミルクランド北海道（事務局・ホクレン）は、新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化した4月下旬から5月にかけて、医療スタッフへの感謝と、子どもたちの健康増進を願う気持ちを込めて、道内医療機関や札幌市内の保育園、幼稚園などに200mlパック換算で計16万本相当の牛乳を無償で提供しました。またホクレンは、厳しい社会状況の中でも、ひたむきに農作業を続ける道内生産者の姿を伝えようと、ホクレンアンバサダーの森崎博之さんを用いたテレビCM＝写真＝を制作、道内民放各局で放映しました。



JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。



JAグループ北海道の連合会・中央会の活動内容を紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。



腎血管性高血圧

たかはし内科消化器内科 院長

高橋 公平



この疾患では動脈硬化などの原因により生じた腎動脈の狭窄により、腎血流が低下することが始まりです。腎臓から見れば血流が低下したのは血圧が下がっているからではないかということで、昇圧系のホルモンであるレニン・アルドステロンを亢進させます。もともと低血圧ではないので過度に昇圧することとなり高血圧になってしまいます。

好発は30歳以下または50歳以上。急速に発症または増悪し、治療抵抗性をしめす高血圧です。聴診で腹部に著しい血管狭窄による血管雑音がある場合に疑います。血液検査で、レニン、アルドステロンが上昇、超音波による腎血流ドプラ検査で腎動脈に狭窄がみられる場合は腎血管性高血圧を考えます。さらにCTやMRIにて、腎動脈の狭窄があれば、腎動脈造影を行い狭窄部位、狭窄程度を確定し、診断します。

治療としてはバルーンカテーテルによる血管拡張術が第一選択となりますが、困難な場合は外科的腎血流再建術が行われます。以上のような血行再建術の適応のない症例や手術までの間の症例では、薬物療法がおこなわれます。

いずれにしろ、原因である動脈狭窄を治療しなければ、高血圧が改善しにくいため、通常の本態性高血圧とは治療方針が異なります。数は少なくとも、見落とさないように注意が必要です。

転載不可

クロスワードクイズ

提供元:クロスワード.jp

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20

A	B	C	D
---	---	---	---

【タテのカギ】

- 田に張った水
- 水をあびること
- 地中から採掘した精製前の石油
- 物の端の尖ったところ、また道の折れ曲がっているところ
- 熱帯のように夜になっても涼しくならず、寝苦しい夜
- 車や船、航空機などで人や物を運ぶこと
- 東南アジアに位置する立憲君主制国家、首都はバンコク
- おろかな人間、愚者
- 学生に限って料金を割り引くこと
- 和装で、長着の上に着る丈の短い外衣
- 旅客を宿泊させて営業する家
- 夏→○○→冬
- ブナ科の落葉樹で、イガに包まれた実は菓子などに使われる

【ヨコのカギ】

- ほんの僅かなはした金、○○一文まけられない
- 左の反対
- 病気やケガを手術などによって治療する医学分野
- 土の中にすむ、手足がなくて、ひものように細長い動物
- 粘っこい土、子どもの工作材料としてよく使われる
- 柚子
- 朝、葉の上などに降りたつゆ
- 和装の際に足に履く、つま先が親指と他の指の部分に分かれている
- 感染症予防に必要不可欠、手洗いと○○○
- 灰のようなくすい黒色
- 野菜を売る店や人のこと
- 徳島県(旧:阿波国)を発祥とする盆踊り
- 芥川龍之介の短編小説、○○の糸
- 細かい水滴が、煙のようにかかる現象
- イタリアの都市、2006年の冬季オリンピック開催地

5月号の正解は

「コイノボリ」でした。

正解者の中から抽選で3名が選ばれました。

深川市 坂田 一敏 様
 雨竜町 岡村 智子 様
 雨竜町 岡部 利恵 様

応募方法

正解者の中から抽選で3名様に農協全国商品券をプレゼント。ホームページ応募フォーム・ハガキ・FAXで①クイズの答え②住所、氏名、年齢③身近な出来事④農協だよりに対するご意見ご要望を記入の上ご応募下さい。

締切7月31日消印有効で当選者とクイズの答えは9月号に掲載します。

【送り先】〒074-0022 深川市北光町1丁目10番10号

JAきたそらち総合企画室企画広報課 FAXの場合は 0164-22-8611

【ホームページ応募フォーム】URL: http://www.ja-kitasorachi.com/application_form/

※ご本人以外による応募は抽選の対象外とさせていただきます。

六月俳句

●雨竜俳句会

軒下に声のかすれて恋の猫
 先んずる吾が影せかす農の春
 過疎の地に声を投げかけ鳥帰る
 障害を乗り越え押ししのけ春の川
 子の夢の次つぎ生まるしやばん玉
 春眠に良きアイデアをもらいけり
 春の雷聞いて作業の始まりて

有田 茉莉
 大林アヤ子
 北川 満江
 小山 邦男
 松木 五月
 宮武めぐみ
 吉見サヨ子

●「道」俳句会 北竜支部

渋滞車先に斜光のひまわり野
 三密を避けて高らに揚雲雀
 ダービーは無敗の青や父もまた
 早苗田は日ごとすり足水碧む
 石蹴りの昭和が遠い夏休み
 ふるさとの一筆書きの滝の文

山本 玲子
 阿部れい子
 吉尾 広子
 山岸 正俊
 山下 好晴
 佐光久美子

●土筆俳句会

咲きました形見の大輪百合ひと枝
 紫の風呼ぶ庭の花あやめ
 子に逢えぬままに五月えお過しけり
 目に若葉ひとり暮らしよちと寂し
 茶の間から夏満月を手でつかむ
 知らぬ地のうぐいす我を歓待か
 早苗田に山並み映す日暮れ里
 師逝くの報の呆然白雨急

高尾美津子
 池田 美知
 坂本 朱実
 引地紀代子
 山川 輝子
 南川富美子
 佐藤英三子
 小橋 厚子

第6回理事会 （令和2年6月5日開催） 以下の事項について決議・承認されました

1. 関係団体等諸会議について
2. 内部監査報告について
3. 組合員の加入脱退について
4. 財務報告及び事業実績について
5. 固定資産の修繕ほかについて
6. 令和元年度 農協経営分析について
7. 職員の人事及び業務事故について
8. JAきたそらち創立20周年記念誌の発刊について
9. JAにおけるマネロンガイドラインとのギャップ分析の報告
10. 貸出実行報告について
11. 持続化給付金について
12. スマート農業推進に向けた新たな組織立ち上げについて
13. 令和2年度 農福連携に係る取り組みについて
14. 令和2年度 主要農産物の生育概況（5月15日現在）について
15. 水稻病害虫防除推進方針について
16. 令和2年度 畑作物試験研究計画について
17. 令和2年度 種子馬鈴薯圃場検査について
18. 小麦集荷に係る職員配置（案）について
19. 畜産物の販売状況について
20. 青果・花き販売実績について
21. 広域花きセンター R1年度収支決算書 R2事業計画について
22. 経済部事業実績について
23. 令和2年度営農用灯油特別対策について

議案第1号 役員補欠選挙に伴う委員会委員の構成について

議案第2号 組合員の出資金持分譲渡について

議案第3号 信用事業及び財産の状況に関する説明書類の縦覧について

議案第4号 職員の夏期手当の支給について

議案第5号 貸出金の貸付について

議案第6号 クミカン貸越極度額の変更について

議案第7号 令和2年産米の取り扱いについて

議案第8号 令和2年産 特定米穀出荷及び予約前渡金について

議案第9号 令和2年産 「玄そば」の取り扱いについて

議案第10号 令和2年産 農産物予約前渡金及び概算金について



組合員の動き

（令和2年5月末日）

		当期首	加入	脱退	当月末
正組合員	個人	1,389	9	39	1,359
	団体	86	2	0	88
准組合員	個人	6,040	51	186	5,905
	団体	331	0	17	314
正組合員戸数		988	1	16	973



JAきたそらち太陽光発電所 発電実績

○令和2年5月実績

○累計（R1.12～R2.5）

発電電力 **66,864kWh**

発電電力 **259,771kWh**

計画対比 + 11,718kWh

計画対比 + 74,675kWh

前年対比 △ 6,511kWh

前年対比 + 2,461kWh

金融共済部 融資課からのお知らせ

新車・中古車・バイクの購入・車検・修理の費用、運転免許の取得に！

JAマイカーローン

さらに

※一部を利用中または新たにご利用の方、キャンペーン利率から、1項目ごとに0.10%引き下げ！
 1. 船号指定 2. 公共料金の口座振替
 3. JAカード 4. JAネットバンク
 5. JAローンをご利用中の方

キャンペーン利率

2.20%~

現在の店頭貸出利率

年3.00%

1.80%

●保証料込（北海道農業信用基金協会保証）
 ●変動金利

キャンペーン期間
 令和2年9月30日(水)まで

全道統一キャンペーン
 抽選で100名様にプレゼント！

ホクレンSS
 ポイント 10,000ポイント

または

カタログギフト
 「ホクレンセレクト」 8,800円相当

応募

方法

JAマイカーローン申し込み時、個人情報を取得する旨の同意書に「キャンペーン参加希望」の欄に「参加」を選択し、申し込みを完了してください。

抽選

※抽選は当選者の氏名を抽出し、抽選結果をJAマイカーローン本部にて発表いたします。
 ※抽選結果は抽選日より1週間以内にご連絡ください。
 ※抽選結果は抽選日より1週間以内にご連絡ください。

キャンペーン
 対象条件

・正組合員および准組合員の方
 または
 新たに准組合員になれる方

(借入対象者) 地域に居住し継続して安定した勤務先からの収入がある方
 (借入金額) 10万円以上500万円以内
 (借入期間) 6ヶ月以上10年以内

趣味や旅行、結婚資金に！使い道いろいろ！

JAフリーローン

資金使途
 確認書類は
 なくてもOK!

キャンペーン対象条件 期間中、フリーローンにお申込みされた方

キャンペーン利率

現在の店頭貸出利率

年5.28%

4.80%

●保証料込（ジャックス保証） ●変動金利

住宅所有者の方は
 さらに引き下げ！

キャンペーン利率

4.10%

入学金や授業料・仕送り・アパート家賃に！

JA教育ローン

キャンペーン
 対象条件

・正組合員および准組合員の方
 または
 新たに准組合員になれる方

(借入対象者) 地域に居住し継続して安定した勤務先からの収入がある方
 (借入金額) 10万円以上500万円以内
 (借入期間) 6ヶ月以上15年以内（在学期間+9年）
 (必要書類) 運転免許証、健康保険証等、源泉徴収票等、納付済年金・学生証等、その他JAが必要とする書類

キャンペーン利率

現在の店頭貸出利率
 年3.00%

2.20%

●保証料込（北海道農業信用基金協会保証） ●変動金利

詳しくは、お気軽にお問い合わせください！

・金融情勢等の変化により金利を見直しさせていただく場合がございます。
 ・ご返済方法等、ご融資の詳細については、窓口へお問い合わせ下さい。
 ・審査の結果、ご希望に追えない場合もございますのであらかじめご了承下さい。

JAきたそらち

本 所 TEL 0164-22-6618 多度志支所 TEL 0164-27-2111
 音 江 支 所 TEL 0164-25-1111 雨 竜 支 所 TEL 0125-77-2331
 深 川 支 所 TEL 0164-22-2171 北 電 支 所 TEL 0164-34-2280
 納 内 支 所 TEL 0164-24-2211 幌 加 内 支 所 TEL 0165-35-2024